

保護者の皆様

可部つちくれの家
平成 29 年 7 月 5 日
施設長 米田香代子

施設だより 7 月

今年も「8月6日」が近づいてきました。

先月半ば、私は孫を連れて平和公園を訪れました。

「原爆の子の像」近くに建てられた折り鶴ブースには

世界中から送られてきた色鮮やかな『千羽鶴・折り鶴』が見受けられました。

元々『折り鶴』は日本の伝統的文化である“折り紙”の一つなのですが、現在は“平和のシンボル”になっています。

その起源は、被爆から10年後に白血病で亡くなった、佐々木貞子さんにあります。

昭和29年(1954年)の秋突然白血病を発症し、昭和30年(1955年)2月に広島日赤に

入院。彼女は病気の回復を願って、キャラメルや薬の包み紙などで鶴を折り続けたので

すが、入院8ヶ月後の昭和30年(1955年)10月25日に12歳で亡くなりました。

この貞子さんの死をきっかけに、昭和20年(1945年)8月6日に投下された『原子爆弾』

で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、二度とこの悲劇を繰り返さないよ

う“平和”を祈願して『折り鶴』が全国で折られるようになりました。

また、昭和30年(1955年)貞子さんの死後、「原爆の子の像」建立運動が始まり、全国か

ら多くの募金が集まって昭和33年(1958)5月5日に像は完成したのです。

この「原爆の子の像」の高さは9メートルで、頂上には『折り鶴』を捧げ持つ少女の

ブロンズ像が立ち、平和な未来への夢を託しているそうです。



像の下に置かれた石碑には「これはぼくらの叫びです　これは私たちの祈りです　世界
に平和をきずくための」と刻まれています。

世界で始めて『原子爆弾』を投下された広島に住む私たちは、「8月6日」の悲劇をけっ
して風化させてはならないでしょう。

年月を経る中で「原爆投下された日時を正しく答えられる子どもが減ってきた」のを危惧

し、広島市の平和教育の一環として、広島市立小中学校の多くが毎年「8月6日」を

登校日として、昭和20年の8月6日は、原爆投下を受け、一瞬にして20万人以上という

多くの命が奪われた日であることや戦争の悲惨さそして平和の尊さを伝えていく機会と

して今まで取り組まれてきました。

しかし、今年から「法令」の関係で実施できなくなったと言います。とても残念に思っ
ています。

つちくれでは、例年通り、『折り鶴』折りに取り組み、『千羽鶴』を

平和公園折り鶴ブースに献納します。

そして、いつものように、当たり前前に三度の食事をし、当たり前前に

つちくれに通い、当たり前前に仲間といきいき過ごせることが、

『いかに平和なことか』を感じ取ってほしいと思います。

